

## 2022年度堺第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

## 1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

**【現状と課題①】**

昨年、丸山地区の現状及びニーズの把握を目的とした実態調査を実施したが、住民がコロナウイルス感染を警戒し、対面での会話を拒まれた方も多かった。住民の必要とする社会資源やニーズの把握がしにくくなっている現状がある。前年度から継続している、ふれあい訪問などの見守り事業については、今年度より感染対策を行いながら対面で調査し、ニーズの把握を行っていく。コロナ禍という状況がさらに引きこもりや人とコミュニケーションをとらなくなることを助長し、フレイルのリスクを高めていることも実感した。相原全域の地形が関係しているのか、昨年1年間で転倒した方の割合が12支援センター間で比較しても高いという結果が出ている。丸山地区も例外ではなく、坂の上に住んでいる住民は引きこもりになりやすく、フレイル状態になる可能性が高いことが考えられる。

**【現状と課題②】**

武蔵岡アパート(武蔵岡団地)は全戸数787戸のうち518戸に高齢者が住み、このうち262戸が独居高齢者となっている。2020年度の総合相談のうち、およそ40%が武蔵岡アパートの高齢者からの相談であり、相談内容としては、老々介護、8050問題、認知症、権利擁護、生活支援等と多岐にわたった。又、これらの問題は単発ではなく重複していることが多い。問題解決のためには高齢者支援センターからだけでは根本的な解決には至らないことが多い。高齢者支援センターと地域住民とのつながりを構築し、継続的に支えられる仕組み作りを検討する必要がある。また、買い物について近隣には店舗が少なく、駅前のスーパーにはバスなどで移動しなければならない現状がある。昨年に引き続き、移動支援の本格実施に向けた取り組みが必要になる。

**【現状と課題③】**

2019年度 2020年度と継続して相原町のケアマネジャー・地域の住民からの相談の中で精神障がい者との関わりに関する相談が多かった。医療に繋がっていないケースもある中、2021年度の地域ケア推進会議では「多職種で連携して支援出来る仕組みがほしい」という意見が最も多く、その仕組みづくりについて検討した。連携ツールについて利用実態を含め情報共有を行ったが、医療につながらないケースについての検討には至っていない状況であり、医療と介護の関係者による協議をしていく必要がある。

## 2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①	相原町の住民がいつでも集えるような通い場づくり	
計 画	目標	
		住民が集えるような地域の通い場づくりを MSC と連携してすすめていく。 自主グループを立ち上げ、通い場の充実化を図る。
	2022年度の取組	
		①センター職員が見守りも兼ねた訪問調査を行い、細かな課題や現状把握、問題の抽出を行う。(丸山町会) ②歩いて行ける場所で「町トレの立ち上げたい」と希望された方がいた場合、立ち上げに向けた支援を行う(ふれあいけやき館か丸山公会堂)。武蔵岡では、自主グループ立ち上げに向け自治会・老人会・介護予防サポーターと協働して立ち上げを目指す。 ③堺市民センターでのフレイルチェック会への参加を促す。
	活動指標	
		①丸山地区の訪問調査(調査対象:65歳以上の高齢者世帯 607 件)の回答率。 ②町トレの立ち上げ数。 ③フレイルチェック会の実施回数。
	目標値	①調査回答率 40%以上。②2 か所立ち上げ③1 回
実 績	実績値	
	2022年度の成果	
		(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
	2023年度に向けた課題	
	(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)	

取組名②	武蔵岡アパートの高齢者が安心して生活するための仕組み作り	
計 画	目標	
	買い物移動支援の立ち上げと見守りの仕組みづくり	
	2022年度の取組	
	<p>①昨年度移動支援の試行運転を実施。より多くの方の声を反映させた買い物移動支援の本格的な事業立ち上げに向けてささえあい連絡会を開催し、移動支援を本格実施させる。</p> <p>②支援センターと武蔵岡アパートの住民が顔の見える関係づくり・相談できる環境づくりを継続して行う。一昨年に武蔵岡アパートの住民が主体となった地域ケア会議の中で作成した終活ノートの説明会を実施し、広報支援(チラシの作成等)の手段作成について武蔵岡アパートの住民と意見交換を行い、見守り普及活動に取り組む。</p>	
	活動指標	
	<p>①買い物支援に関するささえあい連絡会の開催回数。</p> <p>②終活ノートの説明会開催回数。</p>	
目標値	<p>①1回</p> <p>②1回</p>	
実 績	実績値	
	2022年度の成果	
	(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)	
	2023年度に向けた課題	
(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

取組名③		こころの病を抱える高齢者を支える仕組みづくり	
計 画	目標		
	精神疾患の高齢者を地域の精神科、相原町のケアマネジャーや訪問看護等で連携して支援するための仕組みづくり		
	2022年度の取組		
	昨年度より継続として適切に医療に繋がっていないケースなど、精神疾患を患っている高齢者を、地域の専門職が連携して支援する方法について協議し、相原町及びその周辺地域の精神科と相原町のケアマネジャー・精神疾患を患っている高齢者を支援している事業所（訪問看護事業所など）とで医療につながったケースを情報共有し、具体策や支援方法について検討する会議を開催する。		
	活動指標		
	精神科（入院対応可能な病院を含む）と相原町のケアマネジャー・地域の事業所と地域ケア推進会議の開催回数		
	目標値	1回	
実 績	実績値		
	2022年度の成果		
	（目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。）		
	2023年度に向けた課題		
	（2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。）		

### 3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

## 2022年度堺第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

### 1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

#### 【現状と課題①】

コロナ禍以前行っていた広報誌による情報発信が、町内会・自治会の定例会の休止や、回覧板使用の中止により、行き届かなくなっている。後期高齢者にとっては、紙ベースでの情報取得が主流の中、2021年は広報誌を設置・掲示してくださる協力拠点(店舗や事業所)を拡大してきたが、拠点の地域的偏りや、地域への周知不足が課題として残った。また、自主活動グループや老人会の活動自粛も続く中、対面ではない形での「つながり」が求められている。2021年はオンライン活用講座を開催し、グループのリーダー格の方々に、スマホでZoomにつなぐ方法を習得していただいたが、まだ具体的な動きまで進んでいる事例は少ない。普及啓発継続と、フィードバック拠点創設が課題である。

#### 【現状と課題②】

2020年以降、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、高齢者同士が会う・集まる機会が激減しており、住民同士の自然なかたちでの見守りが行えなくなっている。見守りネットワーク団体の活動も衰退しており、この2年全く定例会開催を行えていない団体も存在する。見守り活動の推進のため、2021年1月に、あんしん連絡員や見守りネットワーク団体(登録の候補にあがっている団体含め)を招集し、見守り交流会を企画したが、まん延防止期間となったために中止となってしまっている。地域での見守り活動の推進・普及啓発活動が必要である。また、もともと見守り活動の地盤の弱いところ(民生委員不在、あんしん連絡員が少ない、見守りネットワーク団体が無い。)や、局所的に後期高齢者が増えているところなども地域に散在しており、そこでは支援センターでの見守り体制強化検討の必要がある。

#### 【現状と課題③】

新型コロナウイルス感染者数増大により、2年もの長期にわたり「自粛」生活が続いていく中、認知症やフレイルリスクのある方が増えている。2020年からは、認知症が進行した状態を、遠方に住む別居親族(子、甥、姪等)が発見し、相談に至るケースが多く見られるようになった。地域での見守り活動が停滞気味な中、地域に埋もれている認知症の進行した高齢者を、いかにして早期発見・早期対応していくかが課題となっている。またエリア的な特徴として、2000年以後に建ったマンション(15棟)に居住する住民が、親を介護する世代になっていることから、認知症進行を発端とした「呼び寄せ」高齢者が増えている。40～50歳代の方に向けて、高齢者支援センターの周知活動や、認知症の普及啓発活動をこれまで以上に勧めていくことが必要となってきた。

## 2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①		支援センターの情報発信の強化	
計 画	目標	支援センター広報誌設置拠点の拡大や、介護予防サポーター・自主活動グループ等へのオンライン発信により、センター活動の周知が進む。	
	2022年度の取組	センターの広報誌を設置できる拠点数を増やし、町内会・自治会の回覧が行き届かなくても、多くの方に広報誌やイベントチラシを見ていただけるように図る。拠点をMap作成して可視化し、エリア全体に偏りがないように拠点拡大していく。 介護予防サポーターや自主活動グループに対して、町ネットサポーター養成講座を開催し、地域活動に熱心な個人やグループの方々が、オンラインを併用した活動に取り組んでいけるように促していく。講座終了後のサポートとして、オンライン相談拠点を常設し、受講者フォローを行う。また、支援センターから、オンライン講座終了者、介護予防サポーター等に向けて、地域資源や介護予防に関する情報を、定期的にオンライン発信する機会を持ち、センター活動の周知を図っていく。	
	活動指標	チラシ設置に協力いただける拠点トータル数(2021年度:12ヶ所) オンラインでの情報発信回数	
	目標値	拠点数トータル 15ヶ所、オンライン情報発信数 3回	
	実績値		
	2022年度の成果		
	(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
実 績	2023年度に向けた課題		
	(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

取組名②		見守り活動の推進		
計 画	目標			
	コロナ禍で希薄となっていた、見守りネットワーク団体・あんしん連絡員との関係性が再構築され、見守り活動が活性化する。			
	2022年度の取組			
	この2年、企画していたものの開催中止となっていた「見守り交流会」を開催する。活動が停滞気味の団体・連絡員と、コロナ禍でも比較的活動している団体・連絡員とが交流していく中で、地域の見守り活動自体の底上げになるように図っていきたい。見守り交流会には、自主的に「見回り隊」を始めた自治会も招集し、見守り団体としての登録も目指していく。支援センターでの高齢者個別訪問は、優先度をつけて行う。未受診者リスト対象者と、後期高齢化が進行している沼田地町内会を最優先とする。並行して、町内会に属していない上小山田町の一区画、民生委員やあんしん連絡員不在、自治会組織もないマンション(シャリエ、ライオンズ、サンクタス)、新築マンション(リーフィアレジデンス橋本)の順でまわることを想定している。			
	活動指標			
	見守り交流会の開催数 センターによる個別全戸訪問を行った地区数			
	目標値	交流会開催数1回、個別訪問を行う地区数1地区		
	実績値			
	実 績	2022年度の成果		
		(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
2023年度に向けた課題				
(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)				



取組名③		認知症の早期発見・早期対応と、相談窓口としての周知活動	
計 画	目標		
	個別訪問によるスクリーニングや、相談窓口としてのセンターの周知活動により、認知症の疑いのある方と重度化する前につながることができ、対応ができる。		
	2022年度の取組		
	見守り相談員の高齢者個別訪問(そのうちの、未受診者リスト対象者、沼団地町内会を想定)に認知症地域支援推進員も同行し、認知症の疑いやリスクについて判断したうえで、必要な方への継続支援を行っていく。状況に応じて、もの忘れ相談や初期集中支援チームにつなぎ、必要な支援を整えていくように図っていく。また、認知症の相談窓口としての役割を、地域の様々な世代の方に知っていただくために、認知症に関わるイベント(家族介護者交流会、家族介護者教室を想定)を開催する際には、HP への掲載を行っていく。内容によって可能なものであれば、オンライン併用した形での開催も検討し、40～50 歳代の子世代の方にも気軽に参加ができるように図っていく。		
	活動指標		
	認知症地域支援推進員の見守り相談員との同行個別訪問数 認知症に関わる講座・イベントをオンライン併用で開催した数		
	目標値	個別訪問数 30 件、オンライン併用イベント数 1 回	
実 績	実績値		
	2022年度の成果		
	(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2023年度に向けた課題		
(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)			

### 3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

## 2022年度忠生第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

### 1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

#### 【現状と課題①】

忠生地区は、団地やアパートに住んでいる高齢者や単身者が多く、町内会自治会がない地区もあり、地域のつながりが希薄で、閉じこもりのリスクが高い高齢者が多い。また免許返納等で外出手段がなくなると買い物や受診などが困難になり、更なる活動性の低下につながる。

支援対象者の早期発見につながるように町内会自治会だけでなく、町トレなど自主グループや民間事業者との連携をはかったり、地域ケア会議の開催や、他の機関が開催する会議に参加したりすると共に、町内会自治会のない地区に対しては、戸別訪問をすることで、忠生地区の住民が感じている課題を探る必要がある。

#### 【現状と課題②】

高齢化率の最も高い小山田桜台は認知症の発症、進行、身体機能の低下により、要介護認定者が急増し、団地での暮らしが困難となる方の増加が予想される。

既に、孤独死や要介護状態となることを防ぐため、住民独自の助け合い活動や見守りを始める団体が増えている。

しかし、今まで以上に、地域の中で気軽に相談でき、必要な際には支援センターへ繋がるように、地域住民、ボランティア団体事業所と連携を図り、日常的な支援体制を構築、強化する必要がある。

#### 【現状と課題③】

一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯増加に加え、高齢者と障がい者の世帯や8050問題など複合的な課題を抱える世帯も増加している。個々の世帯が抱える課題も多様化している中で、支援を必要とする高齢者が孤立しないよう、アウトリーチによる早期発見、早期介入に繋げる必要がある。また、包括的に課題を把握し支援できるよう行政、医療機関、高齢者・障がい者関係事業所、警察等と連携、協働することで課題解決を図る必要がある。

## 2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①	忠生地区内の町内会自治会がない地区の実態把握		
計画	目標		
	忠生地区内を更に細分化し、住民・各関係者より情報収集し各地区の実情を知る。		
	2022年度の取組		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・忠生地区内での地域ケア推進会議を開催する。</li> <li>・支援センター内で担当を決め、忠生地区内の町内会自治会のない地区の 65 歳以上の方の戸別訪問を実施する。</li> <li>・忠生地区での見守り普及啓発講座開催に向けた働きかけを継続する。</li> <li>・外出困難な地区では住民とともに取り組んでいる移動支援の仕組みづくりを行う。</li> </ul>		
	活動指標		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域ケア推進会議の開催</li> <li>② 町内会自治会のない地区への高齢者訪問の実績数</li> <li>③ 高齢者見守り普及啓発講座(レギュラー・ミニ)開催</li> <li>④ 住民・事業者と共に移動支援実施運行後のフォローアップの実施</li> </ul>		
目標値	① 1回	②全件	③2回 ④4回
実績	実績値		
	2022年度の成果		
	(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2023年度に向けた課題		
実績	(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

取組名②		高齢化の進む地域への介護予防や認知症の理解、促進の普及啓発			
計 画	目標	小山田桜台地区を中心に高齢者自身の自立への取り組みや、住民が共に支え合うための地域コミュニティづくりを目指す。			
	2022年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小山田桜台地区での自治会、関係団体と連携し、出張相談会の定期開催。</li> <li>・身体機能低下、フレイル予防のための普及啓発講座の開催。</li> <li>・小山田桜台地区での自治会、関係団体と連携し情報交換や課題共有の場の継続</li> <li>・エリア内の中学校で認知症サポーター養成講座を開催する。</li> </ul>			
	活動指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 出張相談会の開催数</li> <li>② フレイル予防のための普及啓発講座の開催</li> <li>③ 地域ケア推進会議(地域支え合い連絡会)の開催数</li> <li>④ 認知症サポーター養成講座の開催</li> </ul>			
	目標値	①	②	③	④
		6回	2回	6回	3回
	実績値				
実 績	2022年度の成果	(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)			
	2023年度に向けた課題	(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)			

取組名③	地域の専門機関とのネットワークの構築		
計 画	目標		
	支援を必要とする高齢者が孤立しないようにする。		
	2022年度の取組		
	<p>① 8050 問題では、親に対する暴力という形で現れる可能性があり、問題が起こる理由や背景を知ること、未然に防ぐことが可能になるため、相談機関等（医療機関、警察、高齢者福祉課、障がい者支援関係機関、保健所）と連携し解決にむけて動く。</p> <p>② ケアマネジャーに対し、家族全体を支援対象として捉え、情報収集や支援することの再認識を促すために、個別支援や勉強会、研修会を開催する。</p>		
	活動指標		
	<p>① ひきこもり家族の相談先や状況把握機関との情報交換会の開催</p> <p>② 担当地域のケアマネジャー向け勉強会、研修会の開催</p>		
	目標値	① 3回	② 6回
実 績	実績値		
	2022年度の成果		
	(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2023年度に向けた課題		
	(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

### 3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

## 2022年度忠生第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

### 1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

#### 【現状と課題①】

これまで世帯の柱であった高齢者が疾患や虚弱等により要支援、要介護状態と変化する中で同居家族のひきこもりの発見、経済困窮、ごみ屋敷化・排泄物による汚染等の住宅環境悪化等様々な課題が同時に発生するケースが増えている。高齢者のみの支援では対応できず、地域障がい者支援センター、保健所、生活援護課、住まい相談等との連携が必要となっている。2021年度取り組んだ「8050問題」も地域ケア推進会議にて社会問題として一般住民が認識するところまで周知されていないことを確認。社会的孤立はどの家庭でも起こりうる問題であることや、相談場所があることの周知、偏見のない地域づくりに関する継続した取り組みが必要である。

#### 【現状と課題②】

忠生第2エリアの高齢化率は山崎団地が50.1%、木曾住宅が45.6%などと高くなっており、高齢者のみ世帯、高齢独居世帯が多い。独居者割合、孤食者割合、低所得者割合が市内では突出して高い。また市外から、経済的な理由で生活が困難になった世帯の流入が増加しており、地域とのつながりを持たずにいる住民も多い。高低差のある階段やスロープの連続、5階建ての団地にはエレベーターがなく、身体機能に障がいがあるとすぐに日常生活に支障をきたす。未受診者の場合は、医療につなげる場所からの支援が必要で、適切な介護サービス等につながるまでに多大な時間を要する。町内会・自治会だけではなく、大家であるURやJKKと更なる連携をとり、住民と本音で対話できる関係づくりが必要になっている。

#### 【現状と課題③】

閉じこもり割合が高く、朝食を抜く、喫煙率、飲酒率が高く生活習慣病が多い。骨粗鬆症などによる圧迫骨折など筋、骨格疾患で突然動けなくなり日常生活に支障をきたすケースも増えている。フレイル予防、介護予防、健康づくりを行う必要がある。新型コロナウイルスの長期化により、フレイルや要支援、要介護状態になる人が増えている。要支援、要介護状態になっても、男女を問わず関心の持てるような通いの場が少ない。活動を行っていた自主活動グループも新型コロナウイルスの影響により活動の休止、再開しても休止状態や活動内容の変更によりメンバーの入れ替わりも増え交流も減っている。オンラインの利用が遅れているため、誰でも気軽に通える通いの場づくりや、やりがいを持てるような企画・活動を進めながら、自宅にいても交流を図ることができるようにオンラインなどの活用も進めていく必要がある。



## 2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

	取組名①	社会的孤立等の問題を抱えている家族がいる世帯に対し、他分野と協働した支援を行う。
計 画	目標	社会的孤立等の問題を抱えている家族がいる場合の相談先を周知し、他分野と協働した支援ができる。
	2022年度の取組	①「未来語りの親の会」の継続、支援センターだよりを活用し更なる広報(親が声を上げることが大切であること、相談場所があることの周知、及び近隣住民への理解「社会問題であり個人の責任ではないこと」)を行う。また、「未来語りの親の会」以外でも老人会等において、2021年度に地域ケア会議に向けてわかりやすく作成した資料を基に「8050問題」がどのような事象であるのかの周知、理解促進を行う。 ②2021年度に行った他機関(地域障がい者支援センター、保健所、生活援護課等)との勉強会や地域ケア推進会議を通し、お互いの役割等の理解を深めることができた。2022年度も継続して勉強会や地域ケア会議を開催しながら、実際に協働した支援を行っていく。 ③保健所・障がい者支援センター・援護課等のフォーマルサービスと家族会等のインフォーマルサービスがお互いの役割を把握できるよう、情報交換できる場を持ち、協働できるような関係づくりを行う。
	活動指標	①「未来語りの親の会」の定期開催。 ②関係機関との勉強会・地域ケア推進会議開催。 ③情報交換会の開催。
	目標値	①12回 ②3回 ③1回
	実績値	
	2022年度の成果	(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
実 績	2023年度に向けた課題	(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)

取組名②	大型集合住宅特有の課題解決に取り組む。(社会的な孤立、経済的困窮等)	
計 画	目標	
	高齢者に限らず、多世代に向けて高齢者支援センターの周知を図り、本人が望まない社会的孤立者等を減らす。	
	2022年度を取組	
	<p>①重点地域である「木曾団地」「山崎団地」「都営山崎」の世代を問わない住民を対象に、高齢者支援センターの役割を周知し、住民とその地域の課題を考えたり、多くの住民が参加できるような活動(暮らしのミニ講座、出張相談会)を行う。また、生活のセーフティネットなどの情報提供や相談ができる地域の身近な相談拠点(カフェ等)を作ることも視野に入れ、活動を行う。</p> <p>②日常生活が破綻してしまう前に、社会的孤立者や経済的困窮者を早期に発見することができるよう、多世代による見守り体制の構築を目指し、見守り講座を開催する。</p> <p>③UR、JKKと住民の状況把握や情報共有することで、相談先の周知、支援の導入や安否確認などをよりスムーズに行うことができるようにする</p>	
	活動指標	
	<p>①「暮らしのミニ講座」「出張相談会」の開催。</p> <p>②見守り講座の開催。</p> <p>③UR、JKKそれぞれと情報交換会の実施。</p>	
目標値	①12回 ②5回 ③4回	
実績値		
実 績	2022年度の成果	
	(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)	
	2023年度に向けた課題	
績	(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)	

取組名③	フレイル、介護予防と健康づくりを行い、誰でも通える通いの場づくりや、自宅でも出来るやりがいの持てる企画を行っていく。	
計 画	目標	
	①フレイル、要支援、要介護者が少なくなり、介護予防を行う事が出来る。 ②通いの場が増える。(特に男性が通える場:ボッチャ等) ③自宅でも出来る活動の企画・呼びかけ	
	2022年度の取組	
	①介護予防啓発講座の普及活動 ②介護予防月間型イベント:多世代交流、ボッチャ体験、測定会、介護予防講演 ③骨粗鬆症予防の講習会の企画・情報の提供 ④みんなの輪、夢ガーゼプロジェクト企画 ⑤オンラインを活用した支援:つながる☆ダンスの実施・オンライン相談拠点の実施 ⑥通いの場づくり(特に男性:ボッチャ等)・町トレの立ち上げ ⑦自主グループ内の相互支援促進のため活動	
	活動指標	
	①から⑦に対しての企画、実施回数。	
目標値	①1回②1回③1回④1回⑤11回⑥2回⑦1回	
実 績	実績値	
2022年度の成果		
(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
2023年度に向けた課題		
(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

### 3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

## 2022年度鶴川第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

### 1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

#### 【現状と課題①】

通い場の数が少ない小野路町・野津田町を重点地域とし、2021年度は小野路町で自主グループを立ち上げることができたが、野津田町では実態把握のためのアンケート調査の実施のみでとなった。アンケート調査・KDB データ等を分析すると野津田町は個々の運動・趣味活動を行っている高齢者は半数を超えるが通い場の参加率はエリア内で最も低い。これは近くに公園や自然が多くある環境であることと気軽に通える距離に通い場が少ないことに起因する。また面積も広く、町内会も各谷戸毎に組織分けされ情報が集約されているため、介入のきっかけづくりが難しい現状にある。谷戸毎のエリアで活動場所やキーパーソン発掘を行い、講座等の開催に繋げ、交流を目的とした通い場の立ち上げに取り組む必要がある。またコロナをきっかけに活動状況が不安定となっている介護予防自主グループが全体の約4割となっている。活動継続・再開支援を行うことで介護・フレイル予防に繋げる必要がある。

#### 【現状と課題②】

8050問題のように複合・複雑化した課題のある世帯が増加していく中で他機関との協働による包括的支援体制が求められている。鶴川圏域では2021年度より連携を目的として高齢者支援センター、障がい者支援センター、保健センターとで定期的な会議を開催するまでに至っている。世帯の課題を整理し、より円滑で適切な支援が行えるよう今後もこの連携会議の在り方を考え、有効なネットワーク構築の手段として活用し、個々のケース支援に繋げていく必要がある。また課題解決に向けては多分野の連携はもとより、センター職員一人ひとりのスキルアップも求められる。高齢者支援センターは総合相談窓口として柔軟な対応が可能のため潜在化した課題や介入の糸口を見つけやすい環境にある。チーム力向上のための体制づくりと人材育成に取り組み、セーフティネット機能を高めていく必要がある。

#### 【現状と課題③】

コロナ禍で地域での見守り活動が十分に行えず、安否確認の相談が多くなっている。あんしんキーホルダーは外出先だけでなく、見守りや緊急時の初期対応に必要な情報を高齢者支援センターで把握することができるため普及・利用促進に力を入れてきた。2021年度は目標登録件数を達成し、結果、野津田町は保有率が高齢者人口比15%を超えたが、他の5町内では平均9.9%の保有率となっている。従来の普及活動ではまだ不十分であり、更なる普及のため視覚的効果や登録者からの波及効果を狙った新たな周知活動を考える必要がある。自主グループや企業、団体など社会資源やネットワークを活用した地域での登録活動も継続していくことで地域との関係構築にも繋がっていく。また、長期登録者の状況確認を計画的に行い最新の情報に更新していくことで有効性、利便性を高めていく。

## 2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①		介護予防・健康づくりの推進と通い場の立ち上げ・活動継続支援	
計 画	目標	自主グループの立ち上げと活動継続支援を行い、フレイル予防に繋げる。また介護予防に対する住民意識を調査し、アプローチ方法や取り組みに反映させる。	
	2022年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021 年度に行ったアンケート調査結果や地区診断をもとに野津田町の社会資源を活用し、講座開催を通じて自主グループ立ち上げ支援を行う。</li> <li>・小野路町、金井ヶ丘での実態把握を通じて介護予防・健康づくりの意識調査を行い住民のニーズに沿った介護予防普及啓発活動を行う。</li> <li>・町トレ自主グループへ効果測定会を開催し、活動の成果や生きがいへ繋げる。</li> <li>・活動休止、解散となった自主グループも含め、エリア内全自主グループを対象にオンラインを活用した活動方法や新たな活動の提案を行う。</li> </ul>	
	活動指標		
		①講座開催数、自主グループ立ち上げ支援回数	
		②町トレ効果測定会開催回数	
		③町ネットサポーター養成講座開催回数	
		目標値	①ともに 2 回以上
実 績	実績値		
	2022年度の成果		
		(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)	
	2023年度に向けた課題		
		(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)	

取組名②	地域のネットワーク構築とチームアプローチの強化	
計 画	目標	
	地域課題が複雑化、複合化する中、属性を超えて多分野・他機関が協働して迅速な支援が行える支援体制を構築する。またチームアプローチ力を向上し、関係機関間での課題整理や役割分担などの円滑な連携を図る。	
	2022年度の取組	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴川保健センター、鶴川地域障がい者支援センター、鶴川第1・2 高齢者支援センターの4機関で定期的に連携会議を開催し、複合的な課題を抱える世帯に対するアプローチや支援方法を学び、互いの機能を活かした効果的な関わり方を検討していく。</li> <li>・複雑化・複合化した課題や介入・支援が困難であった事例を通じてセンター内で対応の振り返りや評価を行うスーパーバイズを定期的に行う。また内部・外部研修に計画的に参加し、職員一人ひとりのスキルアップからセンター全体のチームアプローチ力向上、課題解決に繋げる。</li> </ul>	
	活動指標	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「鶴川圏域相談支援機関意見交換会(連携会議)」開催回数</li> <li>②有識者によるスーパービジョン実施回数</li> <li>③個別研修計画の作成、研修受講回数</li> </ul>	
	目標値	①3回以上 ②3回以上 ③全職員2回以上受講
実 績	実績値	
	2022年度の成果	
	(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)	
	2023年度に向けた課題	
(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

取組名③	あんしんキーホルダーの普及・活用促進	
計 画	目標	
	地域の見守り機能が十分に発揮できないコロナ禍であっても、あんしんキーホルダーを活用することで緊急時の早期情報共有・対応に繋げられる体制を作る。	
	2022年度の取組	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター独自の普及・活用促進ポスターを作成し、スーパーや薬局など高齢者にとって身近で頻繁に利用する場所に掲示させてもらう。また地域のネットワークや社会資源を活用し、集いの場や店舗等でのあんしんキーホルダー登録会を開催する。特に保有率の低い小野路・金井・金井ヶ丘・金井町で開催を計画的に進める。</li> <li>・前年度以上の年間登録数を目標に掲げ取り組んでいく。</li> <li>・2014年4月～2016年3月に新規登録している長期登録者に対して登録内容の確認調査を行い、情報の整合性を図る。</li> </ul>	
	活動指標	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ポスター掲示箇所数</li> <li>②登録会の開催回数</li> <li>③あんしんキーホルダー登録件数</li> <li>④状況調査の実施回数</li> </ul>	
	目標値	<ul style="list-style-type: none"> <li>①4か所 ②3回以上(うち特定エリアで2回以上)</li> <li>③12件以上/月平均 ④1回</li> </ul>
実 績	実績値	
	2022年度の成果	
	(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)	
	2023年度に向けた課題	
(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		



### 3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

## 2022年度鶴川第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

### 1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

#### 【現状と課題①】

生活を支えていた親世代が認知症を発症したり、要介護状態になったりすることで、これまで福祉的な支援と関わってこなかった世帯で、様々な課題が表面化することが増えている。同居家族の引きこもりや、経済的困窮、世帯構成員への不適切な介護状況など、いわゆる8050問題として町田市全体での課題としても取り上げられているが、高齢分野によるアプローチだけでは、子ども、孫世代など他分野での課題を抱える世帯への課題解決が難しくなっている。

#### 【現状と課題②】

鶴川団地を抱える鶴川2丁目、5丁目、6丁目全体の高齢化率は35.77%（2022.1.1現在）となっており、町田市の高齢化率を大きく上回っている。なかでも鶴川5丁目、6丁目は45%を超えている。

また、コロナ禍により住民によるグループ活動や集いの場の多くが活動できなくなり、住民同士のつながりが少なくなっている。

民生児童委員も鶴川団地の地域では定数6名に対し4名欠員（2022.1.1現在）となっており、見守りの目が少なくなっている。

#### 【現状と課題③】

三輪地区にて地域住民より認知症高齢者の見守りについて不安があると声が上がっており、地区内にアパートも多く、単身高齢者も多く居住している。

活動拠点となる施設が少ない為、徒歩圏内で参加できる自主活動グループが立ち上がり難く、古くからの住民と新しく居住し始めた住民との交流の場が少ない等の課題を抱えている。

## 2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①		多問題を抱える世帯に対応できるネットワークづくり	
計 画	目標		
	高齢分野だけでは解決の難しい、8050問題などの多問題を抱える世帯に対応できる多分野協働でのネットワークづくり		
	2022年度の取組		
	①多問題を抱える世帯に分野を超えて対応できるよう、地域ケア会議を活用する。鶴川第1高齢者支援センターと協働し、鶴川圏域内の他分野福祉関係機関と更なる関係強化を行い、圏域内の8050問題等の課題の共有をはかる。		
	②8050問題等の地域課題を共有する事で、地域で必要な多分野協働での支援体制の構築を図る。		
	活動指標		
	①鶴川圏域内の福祉関連機関との連携会議の開催数 ②鶴川地区社会福祉協議会主催している高齢・障がい・子どもなど多分野の支援団体が集まる福祉情報交換会への参加数		
	目標値	① 3回以上 ②12回	
実 績	実績値		
	2022年度の成果		
	(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2023年度に向けた課題		
(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)			

取組名②	鶴川団地地域での見守りの目を増やす	
計 画	目標	
	① 住民主体の通いの場をつくることでお互いに見守りあえる関係を築く。 ② 出張講座やあんしんキーホルダー登録会などを開催し、認知症や見守りに対する理解を広げる。	
	2022年度の取組	
	① 鶴川団地内で町トレグループの立ち上げ支援を行う。 ② 自主活動グループや、町内会自治会会員、URなど、鶴川団地内で活動しているグループへ認知症サポーター養成講座や見守り普及啓発講座、あんしんキーホルダー登録会などの案内を行い、講座等を開催する。	
	活動指標	
	① 町トレグループ立ち上げ支援数 ② 出張講座開催数 ③ あんしんキーホルダー登録会開催数	
	目標値	① 1グループ②1回以上③1回以上
実 績	実績値	
	2022年度の成果	
	(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)	
	2023年度に向けた課題	
(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

取組名③	三輪地区での支え合い連絡会の開催	
計 画	目標	
	三輪地区における既存のグループ活動の把握と支え合いの仕組みづくり	
	2022年度を取組	
	<p>①三輪地区内で行われている交流の場と自主活動団体を把握し、センターとの関係づくりを行う</p> <p>②町内会自治会、老人会、民生児童委員、介護保険サービス事業所、自主活動グループ等に地域の現状を伝え、地域の見守りや認知症への理解を高める為、支え合い連絡会を開催する。</p>	
	活動指標	
	<p>①自主活動グループ(町トレ2か所、体操1か所)への訪問数</p> <p>②支え合い連絡会の開催数</p>	
	目標値	①各グループ年1回以上 ②年1回以上
実 績	実績値	
	2022年度の成果	
	(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)	
	2023年度に向けた課題	
(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

### 3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

## 2022年度町田第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

### 1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

#### 【現状と課題①】

都営木曾森野アパートは高齢化率31%と、担当地区内でも高値である。KDB データによると糖尿病患者が多く生活習慣改善・フレイル予防の取り組み支援が必要である。また、2021年度に当アパートで工事により一か月エレベーター使用停止となった際、買い物に困る方が多くおられた。独居や身体機能低下により生活能力が脆弱な方が多いと予測される。この地区の食生活を中心とした生活支援の実態を把握し、必要な社会資源を検討する必要がある。

#### 【現状と課題②】

町田市は特殊詐欺被害が都内ワースト1と言われている。駅周辺の無人 ATM に誘導する被害も多いと聞く。エリア内でアポ電と思われる不審電話の相談や、悪徳商法と思われる相談も増えている。具体的に被害が多いエリアを把握し、重点的に詐欺被害防止に取り組む必要がある。判断能力の低下による被害ケースも見られるため、権利擁護の視点から普及啓発を行う必要がある。

#### 【現状と課題③】

担当地区は町田駅周辺の商業地域を含み、また住宅地にも小売店(スーパー・八百屋・パン屋等)が多いが、小売店からセンターへの通報・相談は少ない。小売店は高齢者との接点も多く、異変に気づきやすい機関といえる。コンビニの方が認知症と思われる方を見守り・時には生活支援をしておられ、その後センターと連携が図れた事例もある。商店等へのセンター周知を行い、地域の見守り意識の向上を図る必要がある

## 2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

<b>取組名①</b>		木曾森野都営における生活実態調査の実施	
計 画	目標		
	木曾森野都営 3 棟の独居高齢者を対象に生活支援の実態調査を行う。生活習慣改善が必要な高齢者の発見と、必要な社会資源の把握を行う		
	2022年度の取組		
	【重点地区設定】 2021 年度にエレベーター工事が行われた 3 棟を対象とする。工事をきっかけに自治会・民生委員と連携をとり、介護サービス利用者の訪問を行った際のつながりを生かしながら生活実態調査の目的を伝え、協力を得る。 ・75 歳以上 94 名 (2021, 4 月時点の数値) を対象に、買い物・調理・ゴミ出しなど生活動作の実態や困りごとを把握する調査票を作成する。 ・回覧による告知と訪問による聞き取り調査を実施する。 ・移動販売など今ある資源の把握と、必要な資源の検討に繋げる。 ・周知活動・調査を通して、生活習慣改善が望ましい方を把握し、地域介護予防教室の参加を呼び掛ける。		
	活動指標		
	重点地区 3 棟の75歳独居の方を対象とした実態調査実施回数		
	目標値	1 回実施	
	実績値		
実 績	2022年度の成果		
	(目標に対して、2022 年度にどこまで達成できたか、成果を記載して下さい。)		
	2023年度に向けた課題		
	(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		



取組名②	特殊詐欺被害防止を啓発する	
計 画 （ 画 ）	目標	
	警察と連携を図り、新たな手口や特に留意するエリアの把握を行う。 重点エリアに対する啓発講座を開催するなど、防犯意識の高揚を図る。	
	2022年度を取組	
	警察に実情を伺い、重点地区を設定し、注意喚起を目的とした講座を企画する。 町内会自治会等との連携のもと講座を開催し、参加者が内容を身近な人に伝えること で地域の防犯意識の高揚を図る。 センターだよりに特殊詐欺被害防止を呼び掛ける記事をシリーズで掲載し、回覧す る。	
	活動指標	
	特殊詐欺被害防止を啓発する講座の開催	
	目標値	2回
実 績	実績値	
	2022年度の成果	
	(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載して下さい。)	
	2023年度に向けた課題	
(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

取組名③	小売店との連携により、見守る目を増やす	
計 画 （ ）	目標	
	エリア内の小売店にセンターの周知を図り、お便りや講座情報の配架・掲示を依頼する。承諾頂いた店舗リストを作成し、連携に活用する。	
	2022年度の取組	
	エリア内のスーパー・八百屋・パン屋・電気屋等で、高齢者が利用する店舗にセンターの周知活動を行う。各店舗にはお便りや情報誌の配架や掲示を依頼する。配架や掲示について了承いただいた店舗のリスト化を行う。 店舗に掲示することにより、若い世代への周知が出来ることも期待される。介護予防サポーター養成講座や特殊詐欺被害防止講座等の周知に活用したい。	
	活動指標	
	センター周知の協力依頼のための店舗訪問数	
	目標値	店舗訪問数 20 件
実 績	実績値	
	2022年度の成果	
	(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載して下さい。)	
	2023年度に向けた課題	
	(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)	

### 3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

## 2022年度町田第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

### 1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

#### 【現状と課題①】

本町田地域は17地区からなる本町田町内会と町内会に所属していない自治会、及び地域で構成されている。宅地開発が特に進んだ30～40年前から住んでいる世代を中心に近年では若い世代が移り住む新興住宅地も増え始めてきたが、高齢化率は35%を超え市内で最も高い地域となった。

コロナ禍において、既存の「通い・集いの場」の多くが休止・中止を余儀なくされた。地域フレイルの進行、高齢者の孤立が課題といえる。また、オンラインツールの活用が難しい地域住民がいる現状も踏まえて、どのように地域のつながりを醸成するかについて課題と捉えている。(本町田地区全域)

#### 【現状と課題②】

本町田地域では、自分や家族が介護に困った上で、或いは近隣の方から事が起きたため相談することが多く見受けられる。また、地域性として、近隣の協力関係など、地域でのつながりについて必要と感じている方は多いものの、「自分ゴト」としての地域活動への参加率は低い傾向がある。

本町田地域は市内12地区で最も高齢化率が高く、地域活動におけるマンパワー不足であることなどを背景に認知症施策「Dカフェ」を実施している団体・個人がない。

「健康」や「認知症」に不安を抱える自分・家族・隣人などが必要とする情報の取得や交流の場がない事が地域課題として挙げられる。(本町田地区全域)

#### 【現状と課題③】

障害者手帳の交付率は年々増えている現状があり、障がいサービスを利用し生活している地域住民が65歳を区切りに介護保険制度におけるサービスに切り替えていくことになることについて相談・不満の声も多く聞かれている。

高齢分野を職域とする地域の支援者の場合、障がい者に対する理解や障がいサービスを活用した支援経験が不足していることが課題として挙げられる。また、若年者に対する介護保険サービスはあるものの、高次脳機能障害や特定疾病の若年者が参加しやすいコミュニティや活動場所がないことも課題として挙げられる。(本町田地区全域)

## 2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①		拠点型介護予防活動とオンライン介護予防活動の場づくり	
計 画	目標		
	介護予防活動について地域住民が主体的に取り組むことができる場をつくる		
	2022年度の取組		
	① 重点地域に定める今井地区に於いて、歩いて通える場所で運動、趣味活動を継続して行えるよう介護予防教室を開催する。 (今井地区:松が丘、みはらしの丘、望ヶ丘、千代ヶ丘自治会)		
	② オンライン相談拠点事業の展開		
	・本町田地区内 4 拠点を実施日毎に変えながら巡回し開所する		
	・専門講師と町ネットサポーターによる相談会方式で運営する		
	・住民同士のオンライン活動や新しいつながりづくりを支援する		
	活動指標		
	① 介護予防教室の開催数 及び 参加者数		
② 相談拠点の開催数 及び 相談者数			
	目標値	① 3 回 延べ 30 人 ②32 回 延べ 128 人	
実 績	実績値		
	2022年度の成果		
	(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2023年度に向けた課題		
	(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

<b>取組名②</b>		センター主催のDボックス・Dカフェの開催	
計 画	目標		
	「健康」や「認知症」に不安を抱える自分・家族・近隣住民などが、必要とする情報の収集や交換が気軽にできる場をつくる		
	2022年度の取組		
	本町田あんしん相談室を拠点としたDボックスの展開 「健康」や「認知症」を主テーマにしつつ、広く多世代に対するメッセージ性も持ちながら、住民同士のつながりづくりを踏まえて取り組む ① 地域活動「きんじょの本棚」への参加 ② 地域住民との協働の元、Dカフェを開催する ③ 認知症サポーター養成講座の開催と活動意向者の発掘		
	活動指標		
	① 「きんじょの本棚」MAP への掲載 ② ③ 開催回数及び参加者数		
	目標値	① 掲載完了 ②2回・延べ10名 ③3回・延べ30名	
実 績	実績値		
	2022年度の成果		
	(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2023年度に向けた課題		
	(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

<b>取組名③</b>		高次脳機能障害をテーマにした学習会や地域ケア推進会議の開催	
計 画	目標		
	地域で必要な人に必要な支援が届く仕組みづくりを行う		
	2022年度の取組		
	① 「高次脳機能障害」をテーマに学習会を開催する ② 「高次脳機能障害を支える多職種連携」をテーマにセンター単独地域ケア推進会議を開催する ・本町田に拠点をもつ下記団体等とのネットワーク構築(強化)を重点的に図る 居宅介護支援事業所(介護支援専門員) 訪問介護事業所・通所介護事業所・訪問看護事業所 ・センター単独で行う地域ケア推進会議では医療機関や薬局等とのネットワーク構築(強化)を重点的に図る。		
	活動指標		
	① 開催回数 及び 参加者数		
	② 開催回数 及び 参加者数		
	目標値	① 3回・延べ45名 ② 1回・延べ22名	
	実績値		
	実 績	2022年度の成果	
(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)			
2023年度に向けた課題			
(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)			

### 3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)



## 2022年度町田第3高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

### 1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

#### 【現状と課題①】

玉川学園・東玉川学園地区において、独居高齢者や高齢者世帯の増加と共に、これまで地域活動を行っていた住民も高齢化し、町内会加入世帯率は50%を切り、地域活動をする人材が不足している状態である。地域づくりをするための若い世代を取り込めていないことが課題となっている。加えて、玉川学園地区は住宅地であるが、高齢化に伴い空き家傾向にあり、空き地対策が課題となっている。

また、南大谷地区は比較的若い世帯が増えている地区であるが、一区画が売りに出されると、その区画に十数件の戸建てが建ち、新しい住民が一举に増える状況にある。新たな転居者と従来から住んでいる住民の交流が希薄なことが課題となっている。

#### 【現状と課題②】

現在、町トレは18ヶ所、約470名が参加している。「町トレ支え合い連絡会」にて「会場が確保できずグループを立ち上げることができない」との意見が上がっている。

特に玉川学園7丁目・8丁目、東玉川学園地区においては、こすもす会館1ヶ所に活動会場が限定されており、坂の途中で立地していることから、参加を断念する高齢者がいるのが現状である。徒歩圏内にフレイル予防や交流のための集いの場が少ないことが課題となっている。

#### 【現状と課題③】

認知症高齢者を支える家族が、共依存や引きこもり、精神疾患をもっているなどの状況にあるケースが増えている。介護保険制度を利用している場合でも、日々の介護の中で暴言・暴力、不適切介護、ネグレクト等の虐待事案に発展する危険性を常にはらんだ状況にある。また家族自身が介護保険の利用を拒否するケースもあり、支援センターが定期的に連絡を入れて状況確認等を行っている。支援センターでは認知症サポーター養成講座の開催に加えて、認知症のさらなる理解を深めるために啓発講座を年1回開催しているが、認知症サポーターの活用までには至っていないのが現状である。地域住民を含めた関係機関との情報共有が不十分なために、認知症の人を早期発見及び支援する機会を損失していることが課題となっている。

## 2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

<b>取組名①</b>		若い世代が参加できる地域ケア会議等を増やし、繋がりを強化する。
計 画	目標	若い世代と繋がりをもち、見守りや地域活動の担い手として活躍できる人材を増やす。
	2022年度の取組	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度から引き続き、「防災」をテーマとした南大谷地区の地域ケア推進会議を開催する。開催にあたっては、昨年度同様、南大谷町内会と町田第3高齢者支援センター共催とするが、地域に残っている子供たちの親世代と繋がる団体の協力を得て実施する。</li> <li>・玉川学園地区では、2021年度に空き家対策の一環として、地域住民の集いの場となる「一丁目の加々美さんち」が開所した。2021年7月に地域ケア推進会議「第1回大妄想大会」を開催し、活用や利用希望について意見交換を行った。今年度も地域ケア推進会議「第2回妄想大会」を開催し、地域の活動の担い手とのつながりを強化する。</li> <li>・アクティブシニアの社会参加のきっかけづくりとして、玉川学園地区の児童館と連携し、「こども110番」への参加と「あんしんキーホルダー」の利用を個別に訪問して呼び掛ける。</li> </ul>	
	活動指標	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南大谷地区・玉川学園地区地域ケア推進会議開催のための打合せ会議数と地域ケア推進会議開催数。</li> <li>・「こども110番」の呼びかけ件数。</li> </ul>	
	目標値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・打合せ会議 6回 地域ケア推進会議 2回</li> <li>・呼び掛け件数 30件/年</li> </ul>
実 績	実績値	
	2022年度の成果	
	2023年度に向けた課題	

<b>取組名②</b>		空きスペース等を活用し、新たな集いの場と参加者の開拓を行う。
計 画	目標	高齢者にとって外に出かける事に意義があることを周知し、歩いて通える集いの場を増やすことで、フレイルを予防し、近隣との繋がりを保つことができる。
	2022年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玉川学園地区の「ご近所さん会❀お庭カフェ」を独居高齢者宅に絞らず、立ち上げる。</li> <li>・介護予防の集いの場として、南大谷地区に新たな集いの場を立ち上げる。</li> </ul>
	活動指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玉川学園地区の「ご近所さん会❀お庭カフェ」の立ち上げ数。</li> <li>・新たな集いの場の立ち上げ数。</li> </ul>
	目標値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ご近所さん会❀お庭カフェ」 立ち上げ1ヶ所</li> <li>・新たな集いの場 立ち上げ1ヶ所</li> </ul>
	実績値	
	実績	2022年度の成果
	2023年度に向けた課題	

<b>取組名③</b>		認知症の人を早期発見及び支援するため、地域での支援者を養成する。
計 画	目標	地域の社会資源とのネットワークを構築して、認知症の人を適切な支援に繋げる。
	2022年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南大谷地区の自治会(学園ハイツ・南大谷台)を重点地区として、個別訪問を行い、支援センターの周知や見守り・認知症への理解を深めるための普及啓発を行う。</li> <li>・玉川学園地区にてあんしん連絡員ブロック会議を開催し、独居高齢者や認知症の方の兆候がみられる高齢者の支援を行っていく。</li> <li>・参加者に「自分事として」考えてもらえるような工夫をした認知症サポーター養成講座を実施し、地域の中で当事者を支える土壌づくりを行う。</li> </ul>
	活動指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南大谷重点地区自治会の個別訪問件数</li> <li>・玉川学園地区 あんしん連絡員ブロック会議の開催数</li> <li>・認知症サポーター養成講座・ファイト講座の開催数</li> </ul>
	目標値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重点地区自治会、個別訪問件数 50件/年</li> <li>・あんしん連絡員見守りブロック会議 3回</li> <li>・認知症サポーター養成講座・ファイト講座 3回</li> </ul>
	実績値	
	2022年度の成果	
実績	2023年度に向けた課題	

#### 4 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

## 2022年度南第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

### 1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

#### 【現状と課題①】認知症の理解促進と当事者・家族支援の充実

昨年度は認知症サポーター養成講座をオンラインで行うことにより、働く世代の参加が増加し地域の担い手となった。地域に「認知症とともに生きる町づくり」の一翼を担う現役世代がいることが分かった一方で、まだまだ子供や若い世代が高齢者の心身の変化や認知症について知らない状況が明らかになった。また、家族介護者交流会でもオンラインを活用し事業を継続してきたが、参加できない方を取り残さない工夫が必要となっている。コロナにより高齢の親に会いに行けず状況が悪化していたり、相談が遅くなってしまうケースも多く、より一層の認知症の早期対応・早期受診の支援体制の充実が重要である。また、認知症当事者やその家族の意向を取り入れた、誰もが参加できる集いの場づくりを支援していく必要がある。

#### 【現状と課題②】コロナ禍での地域活動支援とフレイル予防

長期化するコロナ禍において、地域活動が減少しており自主的な介護予防が出来ず、介護保険の新規申請が増えている。また、会場が使えず再開できない活動があるため、戸外での運動の場、集いの場に対するニーズが高まり、昨年度はポールウォーキングのイベントや介護予防教室を開催。住民からは、運動を続けたいとの声が多かったため、引き続き鶴間を重点地域として、グループ活動の継続支援と新たな活動グループの創出に向け働きかけをおこなう。

一方で外出自粛を続ける住民も多いため、引き続きアウトリーチを行って介護予防に関するニーズ把握を行うとともに、地域の医療機関と連携し、セルフケアの方法や重要性の周知、フレイル予防に向けた取り組みを行う。

#### 【現状と課題③】地域ネットワークの充実

コロナのため、外出自粛や介護サービスの利用控え、臨時的な事業の休止などがあり、見守りの目が減少し、地域から孤立するケースも散見された。個々の見守る目を増やすとともに、既存のネットワークを生かしながら見守りを強化し、相談が上がりやすい体制作りを行う必要がある。

また、総合相談の中では、高齢者を含む世帯全体の支援が必要なケースが増えている。昨年度はオンラインを活用し、多機関との情報共有を図ることが出来た。引き続き、様々な手法を用いて医療や多様な分野との連携を強化していく必要がある。

## 2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

<b>取組名①</b>		認知症の理解促進と当事者・家族支援充実	
計 画	目標		
	コロナ禍でも歩みを止めず、認知症施策や周知を手法を変えて実施する。当事者や家族、支援者が当たり前意見交換、反映できる場の創出。		
	2022年度の取組		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出張相談会やイベントを通じて、相談窓口の周知を行うと共に認知症について正しく知ってもらおう。</li> <li>・オンラインを活用し、医療機関・銀行・郵便局などの窓口を担う職員や小学校を対象に幅広い年代に認サポを行い、地域の担い手を増やす。</li> <li>・薬局や病院、高齢者施設などにアプローチし、「知ってあんしん認知症」の設置箇所を増やし、地域住民に認知症に関する知識や情報を気軽に手に取ってもらおう。</li> <li>・CM や介護事業所に、臨床心理士相談や家族介護者交流会の周知を行い、支援が必要な介護者に情報提供を行う。</li> <li>・地域ケア個別会議などで、認知症当事者の声を拾い、新たな場作りやオレンジみなみ風の活動に生かしていく。</li> </ul>		
	活動指標		
	① 「知ってあんしん認知症」設置・配布部数 ② 新たに育成した多世代の認知症サポーターの人数		
	目標値	① 50部	②50名
実績値			
実 績	2022年度の成果		
	(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2023年度に向けた課題		
(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)			

取組名②	コロナ禍での地域活動支援とフレイル予防	
計 画	目標	
	コロナの状況下でも参加出来る、グループ活動の継続支援と新たな活動グループの創出を行うとともに、オンラインを取り入れたフレイル予防を行う。	
	2022年度の取組	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で休止している町トレが多い鶴間・南町田・小川において、再編、継続できるよう支援を行う。</li> <li>・重点地域である鶴間で新たな通いの場を創出し、フレイル予防のプラットフォーム化、地域と支援センターとの相互発信の場を目指す。</li> <li>・外出自粛を続けている方については、実態把握でのアンケートでニーズを調査し、自宅で出来るセルフケアの充実に向けた取り組みを実施する。</li> <li>・地域の医療機関と連携を図りながら、フレイル予防をおこなう。</li> <li>・フレイル予防の教室を開催し、高齢化率の高いつくし野では次年度にむけて、ニーズの調査を行う。</li> </ul>	
	活動指標	
	①自主グループ立ち上げ②継続支援数 ③実態把握でのフレイル予防資料配布数 ④介護予防普及啓発に関する講座・イベント開催数	
	目標値	① 2か所②20か所 ③120部 ④5回
実 績	実績値	
	2022年度の成果	
	(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)	
	2023年度に向けた課題	
	(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)	



取組名③	地域ネットワークの充実	
計 画	目標	
	住み慣れた地域で安心して生活し続けられるよう、住民や専門職を交えた地域ネットワークの充実を図る。	
	2022年度の取組	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東急ストアつくし野店・南町田店での出張相談会や鶴間公園等でのイベント、自治会や老人会などで、相談窓口やあんしんキーホルダーの周知を行う。</li> <li>・子育て世代の地域情報交流のハブとなっている「cosoadot」で、町ネットサポーター養成講座を開催。オンラインユーザーを増やすことで高齢者の活動の場を広げていく。また、cosoadotのように子どもや子育て世帯が多く集まる場所で講座を開催したり、イベントに出店したりすることで、今まで高齢者との関わりがあまりなかった世代にも、高齢者について理解してもらい、見守りの協力を得るなど「お互い様」の共生社会を目指していく。</li> <li>・南あんしんプロジェクトを通じて医療や、障害・児童など多分野との連携を図り、複合的な問題を抱える家族への支援について多分野で協働をしていく。</li> </ul>	
	活動指標	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>① あんしんキーホルダーの新規登録数</li> <li>② 地域住民のオンライン講座参加者数</li> <li>③ 多職種での会議開催数(地域ケア個別会議・地域ケア推進会議)</li> </ul>	
	目標値	① 120 ②のべ30人 ③5回
実 績	実績値	
	2022年度の成果	
	(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)	
	2023年度に向けた課題	
(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

### 3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

## 2022年度南第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

### 1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

#### 【現状と課題①】

コロナ禍が続き、ADL 低下、フレイルの進行、認知症の進行がみられている(全域) 介護予防の取組の継続が必要であるが、町トレ他自主活動も中止しているグループが多い。2020・2021年度の地域ケア会議で「感染症流行下における ADL 低下・認知症の進行への対応」という地域課題に対して、情報発信の必要性があると課題抽出をした。また、スマートフォンを所有される高齢者は増えているが、活用できていないとの相談も多く、オンラインを活用しての交流や情報交換は困難という状況があり、コミュニケーションをとる対策が必要。

#### 【現状と課題②】

南成瀬 7 丁目・8 丁目地域では、老人会が立ち上げた町トレグループがあるが、新しい住宅地との関係は希薄で、個別のケース相談が少ない状況にある。地理的にも高齢者支援センターから最も遠いためか関わりが少なく、相談が入るときには深刻な状況になっていることが多い。早期発見ができていないのではないかと課題がある。自主グループ活動などでつながりのある住民もいるが、活動に参加していない住民との関係構築が必要である。

#### 【現状と課題③】

南第 2 圏域では公営住宅も多く、多世代課題として障がい者支援センターや保健所との連携が必要なケースも増えている。子育て支援センターや子ども家庭支援センターと連携してのケース対応はまだないが、高齢者を含む世帯全員への支援を要する相談対応が増えている。高齢・障がい・子ども各センターと社協や民生委員などの専門職団体での定例会開催は定例化できた。しかし多世代交流の機会は少なく、高齢分野以外の専門分野との連携も十分とはいえない状況。2020 年度に障がい者支援センター・ケアマネジャーと実施した地域ケア推進会議でも他関係機関との連携の必要性が話し合われ、2021 年度に保健所を交えての地域ケア推進会議を計画したがコロナ禍にて延期となった。引き続き関係性構築の取組が必要。

## 2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

	取組名①	コミュニケーションを通じてのフレイル予防		
計 画	目標			
		オンラインでの交流や、正確な介護予防の情報発信を行い、自宅内での運動実施やコミュニケーションの機会を設けてフレイル進行を少なくする。		
	2022年度の取組			
		<p>2020・2021年度と実施した地域ケア推進会議での対策の実践を行う。(専門職からのフレイル予防・認知症予防の取組の情報発信) 自治会や施設の掲示板やホームページなどを活用しての情報発信を行う。</p> <p>高ヶ坂成瀬地区協議会と協働でのスマホ教室を継続し、コロナ禍でもコミュニケーションが取れるよう、オンラインでもつながりができるように支援する。</p> <p>オンラインでの多世代交流や、小学生と住民とのメッセージカード交流など継続して実施。自主グループ活動の定期確認と介護予防サポーターとの定期的な交流会実施にて、フレイル予防につながる地域活動の継続支援を行う。</p>		
	活動指標			
		<p>①専門職からのフレイル予防・認知症予防の取組発信回数</p> <p>②スマホ教室の開催回数</p> <p>③自主グループ活動状況確認回数 ④介護予防サポーター交流会開催回数</p>		
	目標値	①年4回	②10回	③12回以上 ④5回
	実績値			
実 績	2022年度の成果			
		(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2023年度に向けた課題			
	(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)			

取組名②		関係性が薄い地域とのネットワーク構築	
計 画	目標	ネットワークが十分ではない地域との関係性を強め、早期発見・早期対応が行えるネットワークを構築する。	
	2022年度の取組	南成瀬7・8丁目に対して、フレイルチェック会の開催を行う。見守り訪問での個別訪問時に住民アンケートを実施して、高齢者支援センターの認知度向上と課題抽出を行う。見守りネットワークが無い地域でもあり、見守り普及啓発ミニ講座の開催についてアプローチし、重点的に見守りネットワーク構築に向けて声掛けを行う。 見守りの個別訪問は「介護保険サービス・未受診」リストで名前の上がった方や、民生委員不在の地域を中心に行い、高齢者支援センターの活動周知を行う事で、ADL低下・フレイル進行・認知症進行の恐れのある方の早期発見を行い、必要であれば適切なインフォーマル・フォーマルサービスに繋げていく。	
	活動指標		
		①フレイルチェック会の開催回数 ②見守り個別訪問の実施回数 ③見守り普及啓発ミニ講座の開催回数	
	目標値	①1回 ②40件/月 ③3回	
	実績値		
	2022年度の成果	(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)	
実 績	2023年度に向けた課題		
		(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)	

取組名③		多世代問題を抱えた世帯への支援力向上・連携ネットワーク作り	
計 画	目標		
	高齢者支援だけでは解決できない課題への対応力向上と、各機関との連携支援実現に向けてのネットワークを構築する。		
	2022年度の取組		
	<p>高齢者・子ども・障がいの各支援センターの他、社協・民生委員が集まったの南あんしんプロジェクトでの事例検討や課題解決に向けての定例会への参加継続と地域共生社会づくりの「東京モデル」推奨に向けて南地区社協立ち上げを進めていく。</p> <p>ケアマネジャー向けにネットワーク構築として「子ども」「障がい・保健所」と協働しての地域ケア推進会議を開催し、多世代課題を抱えた世帯へのアプローチ方法、アセスメントの視点を学び、各専門機関と連携し、解決に向けて支援ができるネットワークを構築する。消費者被害・権利擁護についてのケアマネジャー向け勉強会を 2022 年度も開催し、支援者向けの啓発活動だけでなく、地域に向けての詐欺防止チラシ配布などの普及啓発活動も行っていく。</p>		
	活動指標		
	①専門職との定例会開催数 ②地域ケア推進会議の開催数 ③権利擁護の勉強会の開催数		
	目標値	①10回 ②2回(子供、障がい・保健所) ③1回以上	
実 績	実績値		
	2022年度の成果		
	(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2023年度に向けた課題		
(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)			

### 3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

## 2022年度南第3高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

### 1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

#### 【現状と課題①】 エステスクエア等の大規模オートロックマンション・成瀬台地域

大規模オートロックマンションや最寄り駅から距離のある比較的敷地面積の広い郊外型戸建て住宅地の高齢化が進んでおり、高齢者の孤立をどう防ぐかが問題になっている。プライバシーの尊重や今までの他者との適度な関係を構築する生活習慣から、困りごとがあっても他者に相談せず、近隣・家族とも適度の距離のある関係性を望まれ、まわりが気が付かないうちに孤立していく傾向にある。認知症の進行・身体状況の悪化や孤立死などが、発覚しないままにそれらの問題が支援の範囲を超えてから介入するケースが増えており手遅れになることも多い。オートロックマンションは構造上外部の目が行き届きにくいいため孤立化が進みやすいことが想定され、また介護サービスが利用しにくいという構造上の問題も指摘されている。

#### 【現状と課題②】 成瀬町内会エリア(重点地域)

成瀬町内会エリアは成瀬2丁目から8丁目までと広域で、その中に5つの独立した自治会が飛び地的にある。昔から住んでいる住民と宅地開発で転入した若い層の住民が混在していて、自治会加入率も低く世代間の関わりが希薄と考えられる。さらに、コロナ禍による外出の自粛や自治会等のお祭りやイベントが中止となっていることで地域のつながり、多世代での交流の機会が減少している。コロナ禍により一昨年度から支え合い連絡会が開催出来ていない現状があるが、そのような現状を踏まえて、多世代の視点からの地域課題把握がおこなえるように関係団体への働きかけをおこなっている。

#### 【現状と課題③】 全域(介護予防・フレイル予防の観点から)

2021年度はウィズコロナの意識を持ちつつ、活動を再開したグループも出てきたが、コロナ禍で地域のイベントが開催できず、外出や交流、趣味活動の機会が減り、フレイルや認知症の進行が問題となっている。情報交換の新しい手段としてオンライン交流会を継続しているが、オンライン機器や環境の問題が大きく、多くの高齢者に対して波及するまでには至っていない。地域の様々な経験や能力・意欲を持った人と必要としている人とを結びつける「地域の掲示板」は一定の効果があり、住民同士の支え合いの気持ちが醸成でき、高齢者の活躍の機会も増えている。また多くの活動団体と情報交換や連携をすることで、高齢者だけでなく、多世代の視点を取り入れていく。



## 2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

<b>取組名①</b>		さりげない見守り活動や集い場の開発のきっかけ作り
計 画	目標	高齢化によっておこる様々な困難や問題点に自ら気づき、少しずつ近所のことを気に掛ける、さりげなく見守り、異変に気付く、支援センターにつなぐ、などの行動を起こすきっかけを作る。
	2022年度の取組	昨年度に地域ケア会議を開催した大規模オートロックマンションのエステスクエアにおいて、地域ケア会議など地域住民が課題を発見する機会を作り、その解決方法を住民と一緒に考える。また成瀬・成瀬台地区においては一昨年からの継続による高齢者共生の会の見守り活動や認知症と共に生きる街づくりなどへの参画や情報提供の支援、新たにできるコミュニティカフェ(陽だまりカフェ)を利用した趣味の集まりや多世代交流のつながりづくり、高齢者の生きがいや社会参加の機会作りなどへの情報提供・広報活動の支援を行う。
	活動指標	
		①エステスクエアにて地域ケア会議の開催（権利擁護・認知症など詳細後日） ②高齢者共生の会への会議・見守り活動への参加支援 ③コミュニティカフェの活動支援
	目標値	① 2回 ②月1回(12回)③3回
	実績値	
実 績	2022年度の成果	(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)
	2023年度に向けた課題	(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)

取組名②	支え合い連絡会を開催し、多世代の視点を取り入れながら地域住民と課題を抽出・共有し解決へ向けた取り組みを検討する。	
計 画	目標	
	多世代で地域課題を話し合う場を持つことで、その課題を我が事として捉え共に解決していけるようになる。	
	2022年度の取組	
	<p>① 町内会や保育、教育機関、地域の商店、企業、様々な活動団体に参加を働きかけ、支え合い連絡会開催の準備をする。多世代の視点を取り入れるため、最初に保育・教育関連機関との支え合い連絡会をおこなう。</p> <p>② 町田ゼルビアスポーツクラブと連携し、高齢者と子供(親世代)をつなぐ活動をおこなう。</p>	
	活動指標	
	<p>① 支え合い連絡会の開催回数。</p> <p>② ゼルビアとの活動回数。</p>	
	目標値	① 2回 ② 1回
実 績	実績値	
	2022年度の成果	
	(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)	
	2023年度に向けた課題	
	(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)	

取組名③	全域でコロナ禍でも取り組める介護予防・フレイル予防の取り組み	
計 画	目標	
	① コロナ禍でも多様な交流の場をつくり、高齢者の活躍の機会を増やす。 ② 高齢者にICTを利用した交流のきっかけをつくる。	
	2022年度の取組	
	① 昨年から続く地域団体との繋がりを太くしていき、新たな活動場所の発掘をして情報提供する。 ② 「地域みんなの掲示板」をさらに活用し、高齢者の活躍の機会を増やす。 ③ 趣味活動・ものづくりや仲間づくりを目的とした自主グループを立ち上げる。 ④ オンライン交流会が住民主体となるよう支援する。	
	活動指標	
	① 活動場所の発掘数 ②活動のマッチング数③グループ立ち上げの数 ④オンライン交流会の実施回数	
	目標値	① 1か所 ② 1回 ③ 1グループ ④ 月1回
実 績	実績値	
	2022年度の成果	
	(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)	
	2023年度に向けた課題	
(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

### 3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

## 2022年度医療と介護の連携支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

### 1 町田市の現状と課題

センターとして考える町田市における在宅医療・介護連携推進事業の現状と課題を記載してください。

#### 【現状と課題①】

地域ケア推進会議の内容の充実と各職能団体との連携協働

2021年度に各圏域において行われた医療と介護の連携をテーマにした地域ケア推進会議では、その開催テーマを決める際には各圏域の地域ケア個別会議より挙げられた課題に対して優先度を決めながら取組を行っている状況がある。その中でも優先度をどのようにつけているか、テーマ設定の際の根拠をどこに求めているかについては各圏域・各支援センターによって様々であり、また各取組後は事後の評価が充分に行われておらず、地域ケア推進会議の最終的な成果を評価できないまま町田安心して暮らせるまちづくりプロジェクトへの報告に至ってしまっている現状がある。

市民が住み慣れた地域で生活を継続できるよう、地域ケア推進会議の効果的な運営を行っていくことが課題である。

#### 【現状と課題②】

医療知識を理解し各介護福祉職種の知識・技術の向上を行う

介護福祉従事者が医療上の基礎知識を有することで、有事の際利用者を適切な医療へつなぐことが可能になると考えるが、現状では介護福祉従事者が利用者へ支援を行う際に有益な医療上の基礎知識などを学べる機会が少ない現状があるため、学習機会の提供が必要であると思われる。

#### 【現状と課題③】

医療機関と連携協働を図れる体制の構築

医療と介護の連携支援センター開設後2年が経過したが、医療職(特にかかりつけ医)からの当センター活用が少ない現状がある。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響がある中でも、町田市医師会所属の医療機関へ訪問し当センターの機能について説明を行い、顔の見える関係作りに取り組んだ。その結果医療機関からの相談が増加している。

これをふまえ医師会所属医療機関と顔の見える関係作りに取り組むとともに、訪問する医療機関の対象を拡げていく必要がある。

## 2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①	地域ケア推進会議の内容の充実と各職能団体との連携協働	
計 画	目標	
	各圏域・各支援センターで行われる地域ケア推進会議の内容について目標設定までのスキームや会議内容への評価についても関わり、地域ケア推進会議が有効的に行われるようにする。	
	2022年度の取組	
	各圏域・各支援センターで行われる地域ケア推進会議の内容について目標設定までのスキームやその内容への評価についても関わり地域ケア推進会議が各圏域・支援センターにて有効的に行われるよう支援を行う。	
	またその際に培われた地域課題解決の手法を蓄積し、その手法を効果的に活用できるよう各高齢者支援センターへの情報発信を行う。	
	また、町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクトに参加している各職能団体へ情報発信を行い、地域ケア推進会議へ参加しやすい状況(年間スケジュール作成や会議内容についての事前周知など)を整備し連携協働に努めていく。	
	活動指標	
	要請された地域ケア会議(推進会議・企画会議を含む)への出席割合	
	目標値	要請され開催された会議数 100%
	実績値	
実 績	2022年度の成果	
	(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)	
	2023年度に向けた課題	
	(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)	

取組名②		医療知識を理解し各介護福祉職種の知識・技術の向上を行う	
計 画	目標		
	介護福祉分野で業務に従事している各職種が、医療と協働して利用者への適切な支援を行える様、基礎的な医療知識を理解する研修会を開催し各職種の知識・技術の向上を目指す。		
	2022年度の取組		
	利用者の医療に関する情報を把握し、必要時は医療と連携協働していく必要がある介護従事者向けに、実務を行う上で必要となる医療上の基礎知識を学べる研修会を開催する。また、医療職から支援を行う上で注意すべきポイントを説明してもらいそれを理解することにより、各自の業務に実際に活用してもらえらることを目的として開催する。		
	活動指標		
	研修会の開催数、1回あたりの受講者数		
		目標値	開催数:年3回(8・10・12月) 1回あたりの受講者数:40名以上
実 績	実績値		
	2022年度の成果		
	(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2023年度に向けた課題		
(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)			

取組名③		医療機関と連携協働を図れる体制の構築	
計 画	目標		
	医療機関への当センターの周知活動を行うとともに、市内各圏域の医療資源の把握、各医療機関と顔の見える関係を築くことにより連携・協働を図れる体制を構築する。		
	2022年度の取組		
	三師会所属の医療機関を訪問し、当センターの機能について説明をするとともに、各医療機関と顔の見える関係を構築する。		
	医療機関との関係性を強化し医療機関からの相談件数を増やすことで、医療と介護の連携協働を阻害する要因等の情報を収集し、課題抽出へと役立てていく。		
	活動指標		
	医療機関からの相談件数		
	目標値	年間 60 件以上	
	実績値		
実 績	2022年度の成果		
	(目標に対して、2022年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)		
	2023年度に向けた課題		
	(2022年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)		

### 3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)
----------------------------